

# ふじのみや探検

## せんげんたいしゃ 第2号 浅間大社のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

### ひみつ1

#### なぜ富士宮に「浅間大社」があるの？

浅間大社の住所は、「宮町1-1」です。昔、富士宮市は「大宮町」といいました。その1丁目1番地が、浅間大社です。つまり、浅間大社という神社を中心にできた街が、富士宮市です。このように、神社などの周りにできた街のことを、**門前町**といいます。

浅間大社は、正式には**富士山本宮浅間大社**（ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ）といいます。駿河の国・一の宮で、日本に約1300ある浅間神社の**総本宮**になります。

正式な名前に富士山がついているように、浅間大社は、清らかで、気高く、美しい富士山を御神体としてあがめています。

### ◇ことばの説明

○**門前町**・・・有名なお寺や神社の周りに作られた街のこと。お参りの人が多く集まる浅間大社には、神社の人や、商人により、街が作られた。

○**駿河の国・一の宮**・・・駿河の国は、昔の国の名前、私たちの住んでいる静岡県の東部・中部地方のことです。一の宮は、昔からよく知られ、みんなの信仰を集め、駿河の国で第一番の神社です。

○**浅間神社の総本宮**・・・全国にある浅間神社のおおもと、中心になる神社。（=浅間大社）

○**富士山を御神体**・・・神様が住んでいる所として、みんながおがむ山、パワースポットです。



浅間大社のしるし  
おさいせん箱にもついています。

### ひみつ2

#### 浅間大社には、どんな神様がまつられているの？

浅間大神（あさまのおおかみ）と、木花之佐久夜毘売命（このはなのさくやひめのみこと）がまつられています。元は、富士山の神さま「あさまのおおかみ」だけでしたが、いつの頃か「このはなのさくやひめのみこと」も一緒にまつられるようになりました。二神は、別々の神さまではなく同じ神さまと考えられています。

名前が2つあるなんて、ちょっと楽しいですね。

富士山は、昔から何度も大ふん火をくり返して来ました。そのたびに、人々がにげたり、土地があれたりしてきました。そんな富士山は、うやまわれ、恐れられてきました。なんとか富士山が鎮まるようにと、「あさまのおおかみ」や水の神でもある「このはなのさくやひめのみこと」がまつられたのです。水は、火を消すということですね。だから浅間大社は、涌玉池のある場所に建てられました。

### ◇ことばの説明

○**まつる**・・・お供え物をしたりおさい銭を上げたりして、神さまをなぐさめたりお願いしたりすること。

○**鎮まる**・・・噴火がなくなり、静かになること。



このはなさくやひめのみこと

### ひみつ3

## 浅間大社は、いつ出来たの？

浅間大社の記録によると、2千年以上昔、富士山が大ふん火しました。私たちの先祖は、住むところも、食べるものもなく、大変こまりました。これを心配した天皇は、山足に、「あさまのおおかみ」をまつりました。

これが浅間大社の始まりです。その後「このはなのさくやひめのみこと」の水の力によって、ふん火も収まり、安心して、暮らせるようになりました。

次に、山宮にまつられました。

大宮（=今の場所）に移ったのは、大同元年（806年）です。浅間大社ができてから2千年以上たっています。長い歴史の中で、今の浅間大社があるんだね。

### ◇ことばの説明

- 天皇・・・垂仁天皇（第11代）
- 山足・・・富士山の良く見える場所。特別の地名ではありません。
- 山宮・・・建物はなく、富士山を直接おまいりします。今年（2010年）鎮座1900年祭が行われました。
- 大同元年・・・806年、坂上田村麻呂が天皇のいつけで、富士山が良く見え、きれいな水の湧く大宮町に浅間大社を移しました。



山宮浅間神社

### ひみつ4

## 今の建物はだれが建てたの？

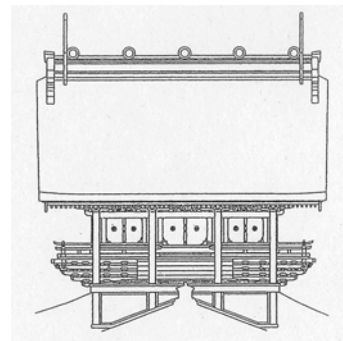
徳川家康です。関が原の戦いに勝って天下を手に入れたお礼として1604年、浅間大社に本殿・拝殿・楼門など30以上の建物を造って境内を整備しました。

本殿は、浅間造りといわれ2階建てです。このような建物は他に例がありません。国の重要文化財に指定されています。

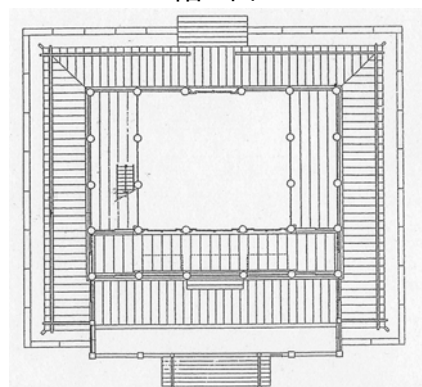
家康は、867石の朱印地と富士山頂の土地も寄進しました。

### ◇ことばの説明

- 関が原の戦い・・・1600年、東軍の徳川家康が西軍の石田三成に勝った戦い。「天下分け目の戦い」といいます。
- 浅間造り・・・社殿の上にさらにもう一つの社殿がのっています。
- 重要文化財・・・国にとって、大切な建物などを、保護するために指定したものです。
- 朱印地・・・そこに出来たお米（=年貢）は、浅間大社のものになります。
- 寄進・・・浅間大社に、お金・土地などを寄付すること。



二階正面



一階平面

浅間大社本殿

**まめ知識**

**外国人で最初に富士登山をしたのは誰？**

イギリス人のオールコックです。

1860年（万延元年）、当時の江戸幕府に申し出て、富士登山を行いました。

7月24日、浅間大社について一行は、雨の中カッパを着て、大宮から山宮を通り、大鏡坊で一泊しました。25日、晴天の中、山の男たちにコーヒー・米・ビスケットなどを担いでもらい出発しました。途中で馬を降り、4時間歩いて室に到着しました。翌日、夜明けを待って、出かけました。頂上はすぐそこに見えるのに、なかなか着きません。途中で、行衣を着た登山者に会いました。寒さと空気の薄さにたえながらようやく山頂につきました。イギリス国旗を掲げ、シャンパンで乾杯しました。

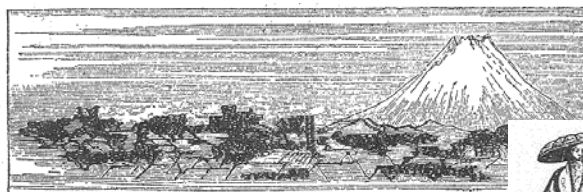
オールコック一行は、イギリス人8名・通訳・幕府の役人・荷物を運ぶ人など、大勢になりました。

**◇ことばの説明**

- 万延元年・・・3月に江戸幕府の首相、井伊直弼が、水戸の武士たちに殺された。（桜田門外の変）
- 大鏡坊・・・村山にあったお寺、今はありません。
- 室・・・富士山に作られた、登山者のための宿泊所。
- 行衣・・・富士山に登る人が身につける白い服。
- 通訳・・・オールコックと役人に、話が通じるようにする人。

**◇浅間大社の歴史**

年	できごと
すいにん 垂仁天皇 3年	浅間大神（あさまのおおかみ）を、「山たり足」の地に祭り、富士山をしずめた。
けいこう 景行天皇の時	やまとたけるのみこと 日本武尊が、浅間大社を「山宮」にまつた。
806年 (大同元年)	さかのうえのたむらまる 坂上田村麻呂が、「大宮」にうつし、神社を建てて、おまつりした。
1193年 (建久4年)	みなもとのよりとも 源頼朝が、富士で巻狩りを行う。やぶさめを行った。
1208年 (承元2年)	頼朝、神社をなおす。
1577～1588年 (天正5～16年)	ただかつより 武田勝頼が神社を建てる。
1604年 (慶長9年)	とくがわいえやす 徳川家康が、浅間造りで浅間神社を建てた。
1609年 (慶長14年)	いえやす 家康が、八合目以上の土地を寄付する。
1767年 (宝永14年)	富士山が噴火して、宝永山ができる。
1868年 (明治1年)	だいぐうじ ふ、じ またはちろう すんしゅうせきしんたい 大宮司・富士又八郎は、駿州赤心隊を作り、江戸へ向かう。
1982年 (昭和57年)	「富士山本宮浅間大社」に名前を変える。



『大君の都』（さし絵）

**◇『第2号・浅間大社のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。**

1	『浅間文書纂』 浅間神社社務所	1931
2	『富士の研究Ⅱ 浅間神社の歴史』 浅間神社社務所	1929
3	『駿河記』 桑原黙齋／著 臨川書店	1932
4	『富士山歴史散歩』 遠藤秀男／著 羽衣出版	1996
5	『大君の都』 オールコック／著 山口光朔／訳 岩波書店	1962
6	『富士の女神のヒミツ』 富士吉田市教育委員会	2010
7	『絵本コノハナサクヤヒメ物語』 縷衣香（るいこ）／著 而立書房	2007
8	『袖日記 一駿州大宮町横関家一』 富士宮市教育委員会	1996
9	『角田桜岳日記 一駿州富士郡大宮町一』 富士宮市教育委員会	2004
10	『駿州赤心隊』 若林淳之／著 浅間神社社務所	1968







大鳥居



ほこたていし  
鉾立石



さいせん箱



楼門



拝殿



本殿